

景観グループ

山中 笙子



パトロールグループ

山本 美智子

◆パトロール REPO

花組は、いつもは大体 4~6 人ほどで活動しています。主な作業は草取りで、メンバーは本当に感心するほど根気よく、作業後きれいになった花壇を満足顔で眺めます。時には、花木の柵作り材としてまっすぐ伸びた竹を伐ることもあります。やろうと思えば、か弱き女性でもできるのですね。青竹でこしらえた柵や、たまに工夫した紐結びは花木の品格をアップさせ、私たちも惚れ惚れして「なんてきれいな！」と自画自賛することもあります。

しかし、この女子力を以ってしても、どうにもならないこともあります。それを実感させられたのが、昨年秋のギボウシ植え替え作業でした。シェードガーデンのギボウシが、伸びたミョウガに覆われ陽が当たらず花が咲きませんでした。そこで救出作戦としてギボウシを掘上げミョウガの根を取り除き、土壌改良の為、地面を 30~50 cm 掘り下げること。ここで男性の出番！景観グループ 8 人位の草刈り隊が、残暑の中、土壌を掘り下げ更にそこへ真砂土を「暑い！しんどい！腰が痛い！」の言葉を笑いに紛らわせながら運び入れてくださいました。強力なる男伊達のいい皆さんに、改めてありがとうございます。お陰で数か月がかりの植え替えを終えることができました。

考えてみれば、一昨年皆さんに喜ばれた皇帝ダリア、風船カズラなどの背の高い支柱、アダプトプログラムで購入した角材で新調されたハボタン花壇の囲いなど、すべて男性の協力によるものでした。この会員同士の助け合い、協力こそが今日のならやまを作ってきたのだと思いました。



今の時期は、落葉樹の葉は散り落ち空がよく見える。林の中の見通しもきく。カシノナガキクイムシの被害木の無残な姿がパトロールコースのあちこちで見られる。昨年は里山・景観グループの協力のもと伐採と後始末が行われた。まだまだ倒木の心配や、寄りかかきの危険木もあり、今年もその対応が求められる。

一方、昨年は観察路の整備、補修に努め、丸太階段やロープ手すりの改修、新設に終始した。また、荷揚げ作業へと分担したが、男性群には全く敵わない。プロ化した熟練と手際よい作業に敬意と感謝の連続でした。

さて、1月11日初出の日のパトロール。新装改道？の観察路に出発。寒中ながら風もなく快晴。木漏れ日が暖かく感じる。千両とショウジョウバカマの下草刈りをする。真っ赤な実をつけた千両の二つの株の周囲に伸びた笹やサルトリイバラを刈り取る。一年前より立派に一回り大きな株に成長している。実生からか、双葉や幼木が付近に育っているのを見つけ嬉しくなる。また、保護をしていた日蔭の傾斜地で笹を刈ると、湿地の濡れた落ち葉に埋まるようにショウジョウバカマの緑色の葉が群れを作るように、あつちに、こっちに見えてきた。4月には名前由来の猩猩に似たという桃色の小さな花を見せてくれることを楽しみに「春よ早く来い」と帰路についた。



ならやま虫だより

菊川 年明

◆ならやまの昆虫の味

***イナゴ**

昆虫食と言えば「げてももの」というイメージがつきまとうが、イナゴは昔からの食べ物で、今でもデパートの食品売り場で佃煮が売られている。イナゴには独特の風味があって、私にとっては秋の楽しみの一つである。佃煮の市販品は、後ろ脚のとげとげの部分を取り除いていないので少し食べにくい、自家製ではこの部分を丹念に取り除くので食べやすい。イナゴは2種いるが、ならやまに普通にいるのはコバネイナゴである。

***サクラケムシ**

サクラケムシはモンクロシャチホコという中型のガの幼虫(毛虫)で、「げてももの」扱いは免れない。盛夏の頃、サクラの木に群がって葉を食い荒らし、木の下は糞で紫色に染まる。体色は黒に近い紫色、白い毛が生えていて不気味であるが、素手でつかんでも大丈夫である。ならやまBCのサクラの木にもよく発生している。この毛虫の食味は昆虫食愛好家の間ではすこぶる好評で、逸品である。焼いたり、炒めたりするとサクラの葉を餌にしているためか、桜餅を思わせる風味がある。いくら美味でも所要量の確保がむずかしければお話しにならないが、この虫は逃げ足に心配はなく、しかもたいてい集団でいるので採取には苦労しない。



調理済みのサクラケムシ

***テッポウムシ**

テッポウムシはカミキリムシ類の幼虫で、頭の大きい、白いイモムシである。樹木や竹材の中に入っていて、薪割りなどをしていると出てくる。焼いたり、炒めたりして食べるとたいへんクリーミーな食感と味で、昆虫食としては太鼓判の味である。しかし、あまり捕れないのが欠点である。

里山の今



ならやま花だより

桜木 晴代

12月号ではならやまのシンボルツリーになると思われるメタセコイアについて紹介しました。今回はラクウショウ(落羽松)です。



***ラクウショウ (別名: ヌマスギ)**

- 原産地: 北米
 - *原産地では高さ50m、直径3mに達する
 - 葉は長枝ではらせん状に、下部では羽状に互生
 - 沼地や湿地などでは、膝と呼ばれる気根が発達
- 下の写真は今月の14日に長居植物園にて撮影したものです。葉がまばらに残り、実が残っている樹もありました。(ラクウショウは私市の大阪市立大学理学部附属植物園・馬見丘陵公園・万博公園でも観察できます。)



ならやまのラクウショウ



気根

ラクウショウ樹形

***2017年のジュズダマの収穫量報告**

昨年は活動日ごとに熟した実を採取。今年は全てが熟したと思われる時に刈り取り採取。そのため先に熟した実は落下。⑤は落下した実を拾い集めた物。皆さまのご協力のお蔭で昨年を上回る収穫量となりました。大いにご活用ください。



①~④手摘み、⑤落下、⑥柵外(左から①~⑥)